

令和6年度 第4回 小金井市立緑小学校 学校運営連絡会

令和7年1月17日（金） 10:00～12:00 家庭科室

○出席 後藤会長 村井副会長 太田委員 後藤律委員 駒野委員 高井良委員 藤木委員  
八木委員 吉田委員 校長 副校長  
11名中11名出席 委員の過半数の出席により本会は成立

○傍聴者 1名（学生・市外在住）

1 会長挨拶

今年もよろしくお願いいたします。

感染症が流行っているのを気付けてください。

先日、おやじの会を開催しました。いろいろな保護者の方と交流してきました。

緑小は、地域に支えられている感じがした。

2 校長挨拶

今年もよろしくお願いいたします。

緑小は2学期末、インフルエンザが流行りました。今現在は、落ち着いています。

2学期は、6年生のキャリア教育を行い、とても充実した学習になりました。

ICTやチャットGPTを使って、今は、いろいろなことができる。

今回は、学校評価について、ご意見をよろしくお願いいたします。

3 第2回学校評価、学校関係者評価について

○学校評価のアンケートについて

- ・児童、保護者、教職員のアンケートについて、どの項目も概ね肯定的な意見が7割から9割以上しめる。
- ・CS委員会で協議するのは、「地域連携の推進」について。
- ・学校評価の各項目について、ご意見をいただきたい。

○協働学習について

- ・子供同士の対面学習の強化の必要性がある。
- ・協働学習が積極的に行われていることが評価できる。
- ・研究授業の実施や協働学習の充実など、子供の学びを深めるための取組が進められていると思う。

○ICTの活用について

- ・授業ではICT機器をよく使っている様子が見られた。
- ・低学年の活用方法については、今後、検討していくとよい。
- ・6年生のキャリア教育の発表の様子を見ると、ICT機器をツールとして活用していた。
- ・ICTの活用が充実している。

- ・自ら発言することが難しい子供も、タブレットに入力することで意見を発表できることは、とても良い。子供同士でも交流が増えると思う。
- ・タブレットの利用は、授業の効率化や子供たちの楽しんで学ぶ姿勢を育み、とても素晴らしいと思う。

#### ○あいさつについて

- ・あいさつは、他者を意識することにつながっている。
- ・あいさつに限らず、声を掛け合う習慣ができるとうい。
- ・あいさつができていない数%の子供に対する対策が必要である。

#### ○いじめの防止について

- ・いじめの対応は、何がいじめなのかを理解することを進めるべきである。
- ・子供の人権を守る取組が、学校全体で共有されていると思う。

#### ○外部人材の活用について

- ・CS との交流会が役に立っている。
- ・外部人材の活用を今以上に進めていく必要がある。

#### ○地域との連携について

- ・教師や保護者でもない大人との関わりが重要である。
- ・教員がやるべきことと地域がやるべきことを区別することも必要である。
- ・充実した地域連携の取組が、学校の様々な教育活動を支えていると思う。

#### ○ハチドリプロジェクトについて

- ・具体的に何をすればいいのか明確にする。
- ・当たり前の基準が人によって異なる。(例えば、ごみの分別とか)

#### ○全体を通して

- ・家庭との連携に関する項目は数値が低いので、PTA からも投げかけていく必要がある。
- ・設問内容の見直しをする必要がある。
- ・1年生の保護者の評価が比較的高く、安心して学校に通わせている様子がうかがえる。
- ・保護者の回答率を上げることが課題である。
- ・特色ある教育活動の項目をしぼっても問題ないと思う。
- ・学校の教育活動に対しては、概ね肯定的な評価を受けているが、教室環境や施設設備などは改善が求められている。

#### 5 地域協働学校活動について

- ・ 1年生、昔遊びで地域のボランティアを募集している。
- ・ 6年生、キャリア教育について、今後継続できるのか検討してほしい。
- ・ ほうかご遊びは、一日約200人弱、参加している。
- ・ ほうかご遊びのボランティアをやりたい保護者は多い。
- ・ 5年生、防災教育について、地域の防災倉庫を見学。小金井公園の防災倉庫を見学。
- ・ 地域安全見守り会を1月25日（土）に開催する。地域安全課や緑中の生徒会も参加する予定。

#### 4 情報交換

- ・ 緑中が今年度からコミュニティスクールになった。
- ・ 緑中、三小、緑小のコーディネーターを兼任している方がいるので、緑中学区として連携していきたい。
- ・ 緑小デジタルシティズンシップについて。
- ・ 次回のCS委員会で教育課程について話題となります。  
来年度も「たすけあう子ども」を重点目標にする。  
幼保小中の連携を強めていきたい。  
ICTの効果的な活用の仕方を考えながら授業をしていく。